

普天間飛行場跡地利用ニュース 4号

平成20年1月 宜野湾市基地政策部基地跡地対策課発行

市民のまちづくり勉強会組織である「ねたてのまちベースミーティング（以下 NB ミーティング）」では、今年度の活動の一環として、去る平成19年10月11日～13日に先進地視察会を実施しました。今回は「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下 若手の会）」と合同で総勢27名での視察会となりました。

今回は「交通」と「公園・環境」をテーマに、日本初のLRT（バリアフリーなどに配慮された次世代型路面電車システム）導入都市である富山県富山市と、富山市に行く過程で大規模かつ環境に配慮された公園事例として大阪府吹田市にある「万博記念公園」を見学してきました。今号ではその様子を特集で紹介します。

『ねたてのまちベースミーティング』先進地視察会報告

富山市 LRT とは？



富山県の一世帯あたりの自動車保有台数は全国第2位であり、公共交通利用者が減少している状況であることから、富山市では『公共交通の活性化によるコンパクトなまちづくり』を基本方針としたまちづくりが進められており、その一環として、従来のJR富山港線をLRT化した日本初の次世代型路面電車システム『富山ライトレール(愛称：ポートラム)』がH18年4月29日より運行されています。総延長7.6kmでその間に13駅があり、運営は第3セクターの『富山ライトレール株式会社』が行っています。

日中でも15分に1本の運行があり、時刻表がなくても良いぐらいわかりやすく安心して乗車できるものとなっています。開業から1年間の利用状況は、JR富山港線時に比べて平日2.2倍、休日5.3倍と利用者が大幅に増加しており、当初年間2千万円程度の赤字が見込まれていましたが、286万円の黒字収支となっています。

万博記念公園とは？

1970年に開催された日本万国博覧会の跡地を「緑の再生」というテーマのもと、失われた自然生態系を再生させることを目的に緑に包まれた文化公園として一体的に整備された公園です。総面積は264haで、独立行政法人日本万国博覧会記念機構により運営されており、京阪神大都市圏の貴重な緑空間として機能しています。

広大な自然と、博物館等の文化施設、競技場等のスポーツ施設、レジャー施設を有しており、博覧会当時の面影を残す残存施設も数多くあり、様々な環境保全の取り組みも行われています。



ねたてのまちベースミーティング(NB ミーティング)とは？

市民の視点から跡地利用と宜野湾市のまちづくりについて考える組織として昨年度発足した会です。市内各種団体等から選出していただいたまちづくりに関心を持つ方々を中心に構成しており、今回の視察成果などを活かしながら、今後も勉強会、意見交換を中心とした活動を進めていくこととなっています。



富山市（富山ライトレール）の視察

富山市では日本初のLRT 事例である「富山ライトレール」を見学しました。まずは市内中心部の富山駅前にある「公共交通インフォメーションセンター」にて、富山市都市整備部路面電車担当の方から導入経緯、まちづくりに与える影響、将来展望などについての講義を受け、その後質疑応答を行いました。質疑応答は約 1 時間にもわたって行われ、参加者から積極的に質問が出されました。その後実際に LRT に試乗し、利用者の状況やバリアフリー、駅、バスの接続の状況を見学しました。

【主な講義の内容】

- サービス水準の向上とバリアフリーの整備により 60 歳以上の利用者が非常に増えている（4 割が高齢者）。また、一番注目すべき点は今までで歩くことがなかった人たちが歩くようになった点である。
- 将来的には公共交通の利便性の高い LRT 沿線にどんどん住んでもらい、安全で安心して暮らせるまちづくり（コンパクトなまちづくり）をしていくことで、みんなが幸せになるということが最終的な目標である。



駅を見学する様子



LRT の外観



LRT の車両内



講義の様子

【主な質疑応答の内容】

質問①：多くの人に利用してもらうためには？

回答：どうすれば公共交通に目を向けてもらえるのか、応援してくれる人たちとどのように関わっていくかが重要です。このような応援団は官製ではなく市民レベルでいかに応援していくかがポイントになるでしょう。

質問②：公共交通の確保手段として他の選択肢があった中で、LRT に決めた理由は？

回答：費用対効果とまちづくりへの効果という 2 点が決め手となりました。旧 JR 富山港線の利用者数の規模であればバスでも十分でしたが、もともとの軌道があるということに加えて、鉄軌道をつなげることで公共交通の再編と中心市街地の活性化につながるという理由から選択しました。

万博記念公園（大阪府吹田市）の視察

万博記念公園では 3 つのグループに分かれて園内を見学しました。園内は自然やスポーツ・レジャー等の分野別のエリアに分かれており、今回はその中でも「自然文化園、日本庭園地区」にポイントを絞り、大規模公園としての整備内容、環境配慮の状況、万博開催時の施設の活用状況などについて見学しました。

約 50 年前に更地の状態だったとは思えないほど多くの自然環境が作り出され、その中に季節の花畑や環境学習の施設等が整備されており、地域の憩いの場として機能していました。



グループで見学する様子



展望塔から見た公園全体



グループで見学する様子



イベント等も開催される広場

普天間飛行場跡地利用に関わる情報は、ホームページや情報提供窓口でも提供しています。情報収集や跡地利用に関わる要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご活用下さい。



《ホームページ》 <http://www.city.ginowan.okinawa.jp/>

《情報提供窓口》 宜野湾市役所 基地政策部 基地跡地対策課

電話 098-893-4401（直通） FAX 098-892-7022

Eメール kichi01@city.ginowan.okinawa.jp

